

製薬・医療機器
マネー

利益相反透明化プロジェクト transparency project

沿革と概要

- 2019年1月にTansa (旧ワセダクロニクル) と共同で、「製薬マネーデータベース」の公開を開始。
(※2022年からは医療ガバナンス研究所単独で継続)
- 年間20万人以上が製薬マネーデータベースを利用。過去、国会質問に用いられたことも。
- 70報以上の英語論文を発表。
- 製薬・医療機器企業と医療界の金銭関係を中心に、薬剤承認や他業種(タバコ・食品企業)も調査。
- 海外交流事業も加速。
- 医薬経済や月刊FACTAなどの媒体で数多くの分析・論考を発表。

01 データベース作成事業

- 毎年製薬企業、医療機器メーカーの公開データを収集・統合

2020年度製薬会社別 支払い

順位	会社名	支払額
1.	第一三共	1,481,000,000円
2.	小野薬品工業	1,235,000,000円
3.	エーザイ	923,394,164円
4.	アストロザネカ	864,794,758円
5.	ノバルティスファーマ	854,000,000円
6.	大塚製薬	839,803,086円
7.	日本イーライリリー	775,099,386円
8.	武田薬品工業	685,518,306円
9.	中外製薬	676,078,799円
10.	大日本住友製薬	607,174,419円

2020年度の製薬企業85社 支払の内訳

項目	支払額	支払先
B	277億9033万4829円	主に大学や研究機関
C	193億8969万8571円	主に医師個人
D	655億2996万6016円	医療関係者を対象とした講演会
E	9億198万3020円	社会的献礼行為としての講演料

02 情報サイト「製薬マネーデータベース」公開事業

- 一般人、学生など様々な立場の方がアルバイトとして参画。
- 毎年200万円程度の作成費をかけ、無料公開を実施



製薬マネーデータベース『YEN FOR DOCS』
<https://yenfordocs.jp/>



利益相反
透明化プロジェクトの
活動内容

03 調査事業

- 製薬マネー・医療機器マネー公開体制の評価
- 医療者・医療機関・患者団体における製薬マネー・医療機器マネーの規模・分布の評価とその患者ケアへの影響
- 医学部や大学病院での利益相反ポリシーの評価

※その他、薬剤や医療機器に関わる調査を幅広くおこなっています。

04 論文発表

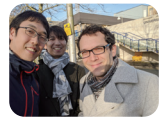
2017年から尾崎章彦医師を中心としたチームで、製薬企業から医師へのカネの流れを学術的に調査し、これまでに70報を超える英文論文を発表しました。
(※2023年11月現在)



05 対外活動

1) 外部講師レクチャー

- バース大学 (UK)
- RCSI (アイルランド)
- ルンド大学 (スウェーデン)



▲2019年12月
バース大学訪問

2) 短期(国際)留学、人的交流

- バース大学 (UK)
- RCSI (アイルランド)
- ルンド大学 (スウェーデン)
- シドニー大学 (豪州)
- Kozminski University (波蘭)
- 明治薬科大学 (日本)
- 蘭州大学健康データ科学研究所 (中国)

3) 学会活動

- 日本医学教育学会



4) シンポジウム開催

- YouTube で動画配信



原 資

- 1) 医療ガバナンス研究所内部資金
- 2) 助成金
 - ・ Great Britain Sasakawa Foundation
 - ・ Daiwa Anglo-Japanese Foundation
- 3) 寄付
 - 随時募集しています ▶
- 4) MRM (メディカルリスクマネジメント研究会) 協賛



執行部・プロジェクトメンバー

- 1) 執行部
尾崎章彦、齋藤宏章、谷本哲也、山下えりか
- 2) 主な研究協力者
鈴木陽介、秤谷隼世、橋本貴尚、三浦基、学生 (約10名)

※50音順

